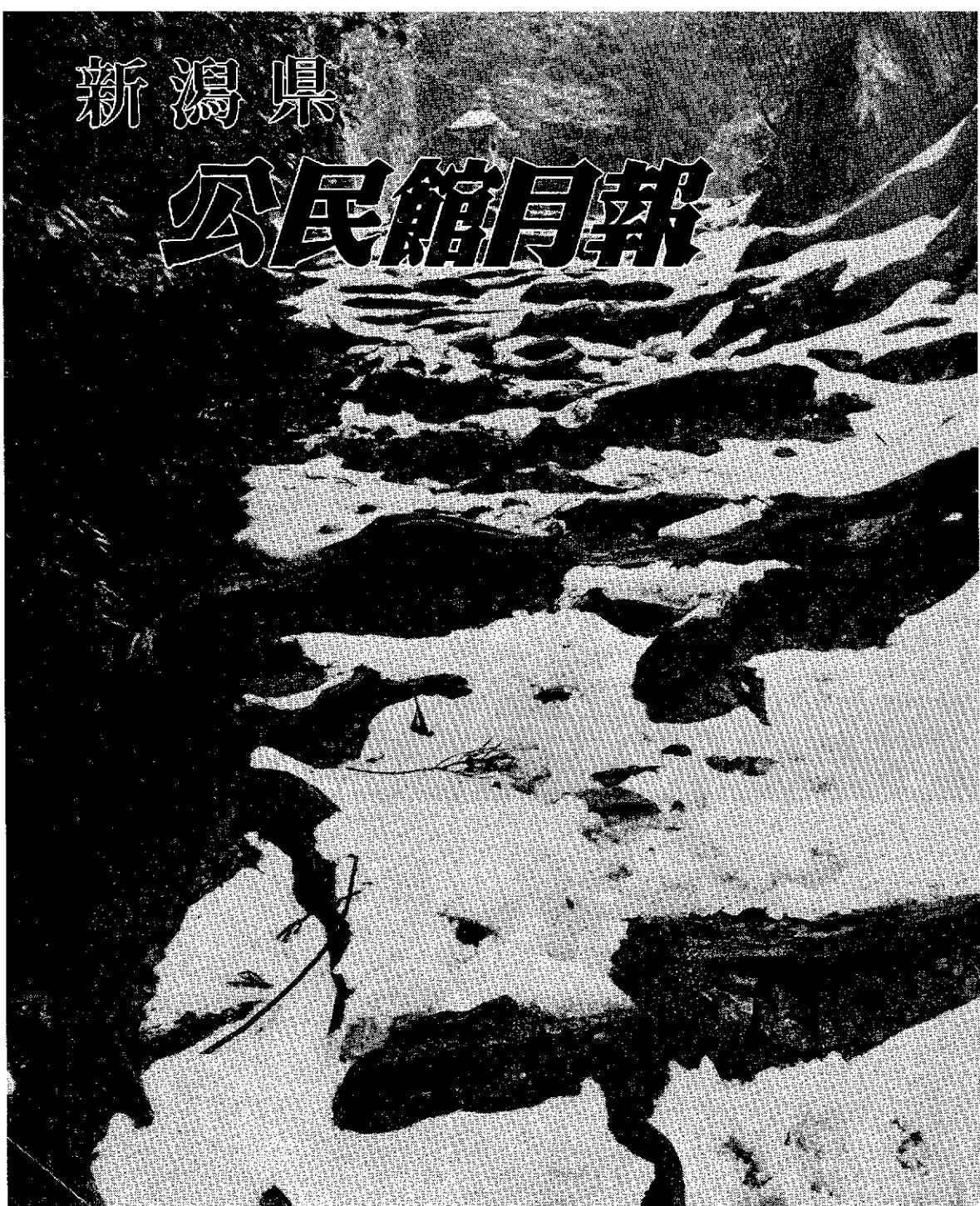


新潟県

公民館月報



足あと

野うさぎのやわらかな
四つ足の足あとと

日が暮れて帰る

わらじがけの良寛さまの
細長い両足の重みを
記憶している古木の根とい

あれから百四十年
毎年雪が積り

そして消えていった

根っこ上の雪が消えると
いまは

固い皮靴をはいた若い人たちや
下駄ばきのお年寄りが大せいや
つてきて
がやがやと踏み過ぎていく

昭和50年3月号

発行所 新潟県公民館連合会

【新潟市一番堀通町・県教育庁社会教育課分室】

【電話・(新潟)(28)6111 内線326】 【振替新潟
4094】

発行人会長 石井耕一

編集人 事務局長 本田清

【定価1部40円・年額480円】

全国大会分科会記録から (3)

「同和教育」が全国的な課題となってきて、従来比較的無関心であった本県でも、少しづつ理解を深めようとしている。全国大会記録から、とくに同和教育部会の内容を抄出して、今後の公民館活動の一助をしたい。(編集子)

同和教育部会要旨

研究討議の主眼点

1 公民館において同和教育をすすめるための具体的方策

2 公民館における同和教育実践上の問題点とその対策

構成員 公民館長・主事・その他の関係者

助言者 大阪女子大学教授 山吉 長

司会者 天理市中央公民館長 岡田盛清

〔助言者の提言〕

山吉(助言者) 公民館と同和教育を考える心構えに3つあると考える。第1に公民館関係者の同和教育に取り組む姿勢について、人間存在の現実にたちかえる必要がある。第2に同和教育問題のとらえ方、解放運動としての同和教育行政のあり方。第3は社会教育をどう考えるかの点検、社会教育とは何かということを社会教育の側面としてとらえる、住民運動と解放運動の関係。

・公民館が同和教育をどうとらえるか、公民館とは何かの理念にたって、人権尊重の理念を再確認すること。

・公民館活動事業——公民館は社会教育施設として、運動の拠点、学習の拠点、組織連帯の拠点、情報、広報の拠点としての点検が必要だ。具体的な方策として、学習計画の設定、学習方法を評価し、経験交流を深めながら同和教育をすすめる具体的研究がほしい。

主眼点として、カリキュラムの必要性、効果的同和教育のつまみの弱さ、評価の問題、解放運動と教育との関係、事業と教育問題の関係。

〔研究討議〕

武田(徳島県) 口でいいことを言っているが、指導者がよろこんで結婚したりするか。形や言葉はきれいでも同和教育は一向にすすんでいない。自分がすすんで部落の中にとけこむことができるか。

畠山(和歌山県) 和歌山市では学級をすすめる時に同

和教育を2回以上入れている。学級に応じてお互いの人権問題について話し合う。市には同和教育推進協議会があり、公民館と横の連絡を取り合っている。

失名(奈良県) 御所市では早くから取り組んでいる。十数年前から、座談会や講演会をすすめているので、表面上は差別がなくなった。しかし心の中にはある。公民館が中心となって一般地区で地区別懇談会を開いている。出てきた話を心から受けとめてみんなが部落の問題を知り、自分の問題にするために少しずつ進歩している。

桑田(徳島県) 實践活動として、館長が主催者となり、教育長や校長を講師に各対象地区を回り同和教育を行なっている。同和地区一般地区的区分けをなくしたい。

失名(徳島県) 同和教育を各種学級の中に3時間は入れることにしている。各層から推進員を委嘱し、町内を9~10回に分けて同和教育をしてきた。子供たちの作文、病の考え方、アンケートを中心として、親たちの間で話し合ってきた。同和教育は一度聞いたらわかるというのではなく、部落の方との交歓学習を計画している。教育は心の出あいが大切である。

失名(兵庫県) 同和教育講座を開講している。第一期(6~8月) 350名の参加を得たのは P T A、婦人会等組織される団体の参加が多かったのは、機関、団体との連携がよかつたためである。第2期講座は計画中であるが、視聴覚教材を利用し、ビデオをみて参加者で話し合う方式で同和教育指導員が指導する。参加者のために朝、昼、夜に実施し、同和教育の理論、概念から立場を変えて、自ら考え同和対策の取り組みの問題を取り上げている。

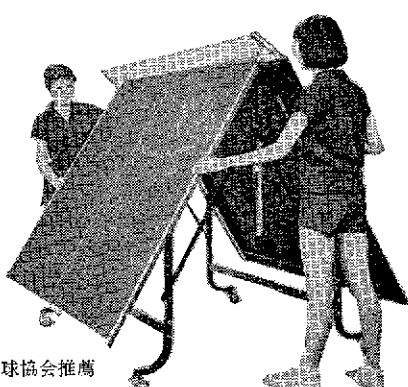
山吉(助言者) 大阪で行なっている池田方式は、公民館の教育活動にすべて同和教育が入っている。年間の講師の方に同和教育の手引きをわざわざ。啓蒙段階から日常化へすすまなければならぬ。同和教育をすすめるうえに、行政指導形と住民指導形があるが、当初は行政指導形もよいが、住民指導形に移行するのが望ましい。

田中(大阪府) 八尾市では7万枚の広報、毎月1回の講座を開設、28の講座生に通信シリーズを配布して同和教育を取り入れている。英会話講座では差別の再生産などの声もあった。行政指導形ではないが、住民指導形であっても何かしっかりいかない。今を川として施設をつくればの考えがあるが、同和教育は物や施設でなく、大切な面は教育である。

この抜群の機能性にご注目!!

デリカ卓球台

- 準備は5秒 移動もカンタン
- キャスター(車輪) 可動式
- 丈夫なコートと組立式ネット・サポート
- 折りたたんだら、つい立てにも
- 公民館等 多目的に使用する場所に是非御使用下さい。
《この他デリカテーブル、デリカステージもご用命下さい》



日本卓球協会推薦



新潟県発売元 川口産業株式会社

新潟市西新町1丁目

お問合せ お申し込みは ☎(0252)73-0121

●ご希望により、詳しい資料をお送り致します。

